

(シラバスNo.3)

科 目 名	教育のユニバーサルデザイン特論	科目コード	24P-S1	
		科目群名	基幹科目	
	Advanced Seminar on Universal Design in Education	必修／選択	選択	
		教職	小・中・高	
担当教員	阿部 利彦	単位数	2	

【授業概要】

教育のユニバーサルデザインとは子どもたちにとって分かりやすく、学びやすく配慮された教育のデザインである。そして、さまざまな学びや行動につまずきを持つ子が、通常学級の日常において学習や活動に興味を持ち、新たに視野を広げられるような工夫である。通常学級にいるさまざまな困難や支援ニーズを持つ子どもをも支える授業づくり、学級づくりの概念について検討するとともに、ユニバーサルデザインに関わる教育の動向に関して考察する。ユニバーサルデザインの視点をいかした教育実践に必要な専門的な知識、インクルーシブ教育に携わる専門職の現場で必要とされる独自の判断力を修得させる。

【授業の到達目標】

- 1 教育のユニバーサルデザイン化について理解する
- 2 インクルーシブ教育における「教育のUD化」の意義について理解する
- 3 ユニバーサルデザインに関わる教育の動向を理解する

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴>（毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください）

形態	実施	具体的に実施すること
講義	○	教育のユニバーサルデザイン（授業・教室環境・人的環境のUD）、各県市町村およびモデル校での実践について
グループワーク・質疑	○	各自の発表、モデル授業（VTR）に関する質疑・応答、グループでの検討
演習	○	UDの視点をいかした各教科別の授業案および指導案作成、発達障害の疑似体験、架空事例についての支援の検討、コミュニケーションに課題のある児童・生徒の支援方法の検討
プレゼンテーション	○	テキストおよび関連文献を分担に従ってPPTにまとめ発表
制作		
その他（ゲストスピーカーとの共同講義）	○	授業UD学会会員である授業実践者による提案、講義および協議

【授業計画】

回	内 容
1	ユニバーサルデザインとは何か
2	教育のユニバーサルデザインとは
3	教育のユニバーサルデザインと個別の支援
4	学び手のつまずきを想定する
5	授業のユニバーサルデザイン～視覚化、焦点化、共有化の視点で
6	授業のユニバーサルデザイン～5つのテクニック
7	各教科における授業のユニバーサルデザイン(1)国語科
8	各教科における授業のユニバーサルデザイン(2)社会科
9	授業のユニバーサルデザインとARCSモデル

10	学びのユニバーサルデザイン (UDL)
11	人的環境のユニバーサルデザイン
12	共感を高める学級づくり
13	ペア、グループ演習における配慮
14	教育のユニバーサルデザインを取り入れた実践(1)小・中学校編
15	教育のユニバーサルデザインを取り入れた実践(2)高校・大学編
試験	
【履修上にあたっての準備】 ユニバーサルデザインについて身近なところから調べておくこと。またバリアフリー、ノーマライゼーション、インテグレーション、インクルージョンについての知識もあると良い。	
【授業外学修（予習・復習）】 予習内容：テキストを通読する。1～10 回は『通常学級のユニバーサルデザイン・プラン ZERO2 授業編』を、11～15 回は『通常学級のユニバーサルデザイン・プラン ZERO』にそって授業を行う。 復習内容：毎回授業後にレポートを課す。授業を振り返り、自分の実践とむすびつけながらまとめなさい。	
【評価方法】 授業への貢献（研究発表、レポート）（50％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する。	
【教科書】 阿部利彦(2014).『通常学級のユニバーサルデザイン・プラン ZERO』東洋館（ISBN：978-4491030555） 阿部利彦(2015).『通常学級のユニバーサルデザイン・プラン ZERO2 授業編』東洋館（ISBN：978-4491031576）	
【参考図書】 阿部利彦(2017).『通常学級のユニバーサルデザイン・スタートダッシュ Q&A55』東洋館 ISBN 9784491034195 学習指導要領及び解説（小学校・中学校・高等学校）：文部科学省	